

防除情報(病害虫情報 号外 第3号)

平成30年5月1日

神奈川県農業技術センター

平成30年イネ縞葉枯病の発生予想と防除について

平成30年1月29日～3月12日に県内16地点の水田でヒメビウンカ越冬世代幼虫を採集し、イネ縞葉枯病ウイルス(以下「RSV」)の保毒虫率を調査した結果、16地点すべてでRSV保毒虫を確認し、平均保毒虫率は3.4%でした(図1)。

平成30年1月29日～2月15日に県内17地点の水田でヒメビウンカの越冬世代虫密度を吹き出し法により調査した結果、平均密度は12.0頭/9㎡であり、平年比「少」でした(図1)。

ヒメビウンカの越冬世代密度は「少」ですが、3月以降の高い気温推移から多発生も心配され、本年の水稲作本田におけるイネ縞葉枯病発生量は「平年並」と見込まれます。

[防除]

水稲初期生育期におけるヒメビウンカの水田飛来によるRSV感染と水田内での感染拡大を抑制するため、ウンカ類に効果のある育苗箱施薬剤(殺虫剤)を施用してください。

田植前および作期を通して、RSVの寄主植物やウンカ類生息場所となり得る水田周辺の雑草の除草を徹底してください。また、本田防除は、育苗箱施薬剤の効果が低下する時期に、農業技術センターの病害虫情報を参考にヒメビウンカの発生状況を把握し、適期に防除を行ってください。

[防除薬剤]

【育苗箱施薬剤】

薬剤名	使用時期	使用回数	使用量
アドマイヤーCR箱粒剤	は種時(覆土前)～移植当日	1回	50g/箱
グランドオンコル粒剤	移植3日前～移植当日	1回	50g/箱
ツインターボフェルテラ箱粒剤	は種時(覆土前)～移植当日	1回	50g/箱

【本田施薬剤】

薬剤名	使用時期	使用回数	使用量
アルバリン粒剤またはスタークル粒剤	収穫7日前まで	3回	3kg/10a
トレボン粒剤	収穫21日前まで	3回	2～3kg/10a

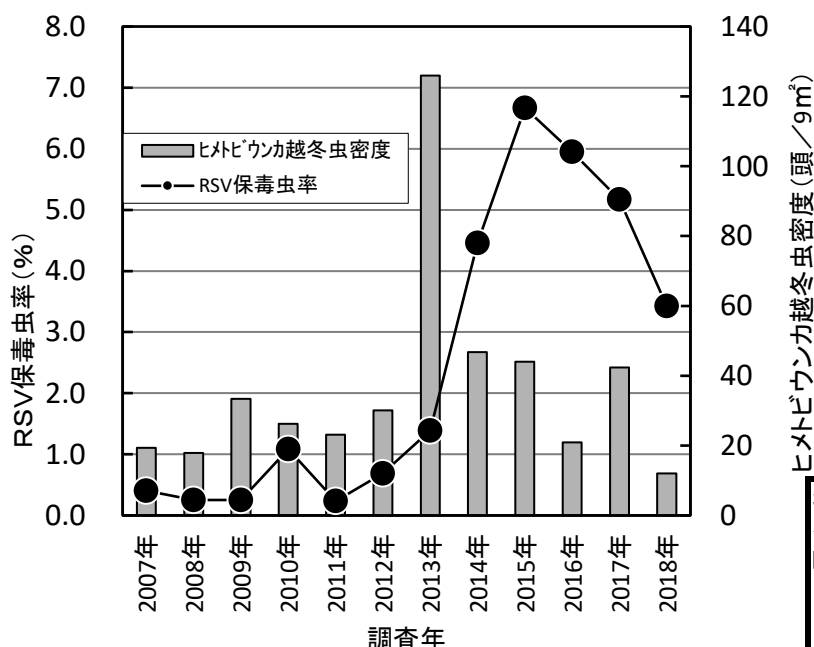


図1 ヒメビウンカのRSV保毒虫率と密度の経年推移

病害虫防除部 TEL0463-58-0333
インターネット
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>
○農業使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。